



平成 19 年 4 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社ネットマークス
 代 表 者 名 代表取締役社長 大橋 純
 (コード番号：3713 東証第一部)
 問 合 せ 先 取締役執行役員経理部長 立石則章
 (TEL. 03-3423-3291)
 当社の親会社 住友電気工業株式会社
 代 表 者 名 社長 松本正義
 (コード番号：5802 東証第一部)

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

この度、平成 19 年 3 月期に下記のとおり特別損失の計上を行うこととなりますので、その概要をお知らせするとともに、併せて平成 19 年 2 月 2 日付で発表いたしました平成 19 年 3 月期（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）の通期の業績予想を下記のとおり修正しますので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上及びその内容

当社の事業構造改革推進の一環として、事業の選択と集中の観点からの事業領域の見直しと事業資産の評価を実施した結果、一時的な特別損失として以下のとおり 439 百万円を追加計上する予定であります。

・不採算事業の事業資産整理損	248 百万円
・固定資産除・売却損	69 百万円
・投資有価証券評価損	65 百万円
・その他	57 百万円

2. 平成 19 年 3 月期の通期業績予想数値の修正（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

【個 別】 (単位：百万円、%)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	40,400	△ 770	△ 1,520
今 回 修 正 予 想 (B)	33,900	△ 2,480	△ 4,020
増 減 額 (B-A)	△ 6,500	△ 1,710	△ 2,500
増 減 率 (%)	△16.1%	—	—
前 期 実 績 (平成 18 年 3 月期)	38,710	606	504

【連 結】 (単位：百万円、%)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	58,300	△ 240	△ 1,460
今 回 修 正 予 想 (B)	51,800	△ 2,350	△ 4,250
増 減 額 (B-A)	△ 6,500	△ 2,110	△ 2,790
増 減 率 (%)	△11.1%	—	—
前 期 実 績 (平成 18 年 3 月期)	55,896	1,002	346

3. 修正の理由

(1) 個別通期業績予想

平成 19 年 2 月 2 日付で発表した予想値（売上高 404 億円、経常損失 7.7 億円、当期純損失 15.2 億円）を、売上高 339 億円、経常損失 24.8 億円、当期純損失 40.2 億円に修正いたします。

当社の場合、従来より受注及び売上が3月に集中しますが、決算集計の過程で2月2日時点の予想値に比べ、売上高の大幅な減少が明らかになりましたので、業績予想の修正をするものであります。

主たる修正の要因は次のとおりであります。

第3四半期に続き、第4四半期の受注高が164億円の予想から75億円と大幅に落ち込み、これに伴い売上高も194億円の予想に対して129億円と大幅に減少(33.5%減)する見込みとなりました。

その主な要因は、大型案件の逸注等による受注量の減少(約△20億円)に加え、プロジェクトの中止(約△2.5億円)、顧客との成約遅れや検収の次期へのずれ込み(約△30億円)、さらに低付加価値案件の取引排除(約△5億円)と売上純額表示の影響(約△7.5億円)などが想定以上に増加したためであります。この結果、売上総利益も売上減少要因(約△11億円)に加え、システム案件等での原価追加・損失処理(約△4億円)のマイナス要因が相俟って、約15億円減少する見込みとなりました。これらが主因となり、経常損失はたな卸資産の廃棄損が2.3億円増加したこともあり24.8億円、当期純損失も上記1に記載の特別損失を含め40.2億円に赤字幅が拡大する見通しとなりました。

(2) 連結通期業績予想

主に個別業績予想の修正要因に加え、平成19年2月2日時点での予想値に対し連結子会社である㈱ネットマークスサポートアンドサービスが当社からの受託案件の減少により約2.6億円、エスアンドアイ㈱が売上減少の影響により約1億円、それぞれ経常利益が減少したためであります。この結果、売上高は518億円に止まり、経常損失が23.5億円、当期純損失が42.5億円に拡大する見通しとなりました。

(3) その他

当期は多額の当期純損失を計上する見通しとなったことから、このたびの損失拡大の経営責任を重く受け止め、その責任を明確にするため、全役員を対象に役員報酬のカットを実施する予定であります。

4. 今後の方針

昨年来、事業構造改革の一環として取り組んでまいりました事業の選択と集中の観点からの事業領域の見直しとグループ各社の役割・機能の見直しによる業務再編、さらに営業・技術部門における人的リソースの有効活用及び効率化に向けた組織改変がほぼ完了しました。次期以降、業績の回復に向け、新たな組織体制をもって内部統制を徹底し、新規顧客の開拓、既存顧客の深耕、採算重視の受注活動に注力していくとともに、不採算案件の発生防止や徹底したコスト削減と効率化の推進など、抜本的な改革に取り組んでまいります。

又、現在、当社は日本ユニシス㈱による当社株式を対象とした公開買付け期間中ですが、本公開買付け終了後は日本ユニシスグループの一員として、同グループ各社との協業を通じて事業シナジーを追求してまいります。

株主及びお客様をはじめとするその他関係各位に対し、多大なご迷惑とご心配をおかけすることになったこと、又、可能な限り早期の決算集計に努めましたが、当社株式の公開買付け期間中、本日の業績修正発表になりましたことを重ねてお詫びするとともに、引き続きご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(注) 平成19年3月期の業績予想は上記のとおりですが、現在、決算作業中であり、実際の業績は上記予想数値と異なることがあります。なお、平成19年3月期の業績については、平成19年5月10日に発表する予定にしております。

以 上